

国語（中3）学力テスト

テスト概要

- 学年: 中学3年
- 対象年: 2003年（平成15年）
- 教育課程前提: 実施課程基準（implementation）。平成10年（1998年）改訂学習指導要領に基づき、2002年度からの完全実施（いわゆる「ゆとり教育」課程）を想定した総合的な学力評価である。
- 満点: 100点
- 設問数: 37問（記述・作文を含む総合設問）
- 想定難易度: 標準（基礎・標準・応用のバランス）

大問1 漢字・語彙・文法（30点）

A 次の下線部の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

1. 彼は謙虚な態度で意見を述べた。（2点）
2. その説明は曖昧で、要点がつかみにくかった。（2点）
3. 会議では妥協点を見つけることが大切だ。（2点）
4. 彼女は憂鬱な表情で窓の外を見ていた。（2点）
5. この問題は複雑な要因が絡み合っている。（2点）

B 次のかっこ内の語を漢字で書きなさい。

6. 先生は私たちに（じょうちょう）な表現を避けるよう助言した。（2点）
7. 彼の行動は（りそう）と現実のギャップを感じさせた。（2点）
8. その結果は（よそう）を超えて大きかった。（2点）
9. 彼は（しんらい）できる友人だ。（2点）
10. この資料は（かがくてき）根拠に基づいている。（2点）

C 次の語句の意味に最も近いものを、アからエのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

11. 四面楚歌
ア 四方から味方が集まること
イ 四方から敵に囲まれ孤立すること
ウ 四方を見渡して安心すること
エ 四方に名声が広がること
（1点）

12. 一石二鳥

- ア 一つの行為で二つの利益を得ること
 - イ 二つの物を一つにまとめること
 - ウ 鳥を二羽捕まえること
 - エ 石を二つ投げること
- (1点)

D 次の各文について、あとに示す問いに答えなさい。

13. 次の文の主語を書きなさい。

「昨日、図書室で先輩が本を探していた。」 (2点)

14. 次の文の述語を書きなさい。

「その話は私たちを深く考えさせた。」 (2点)

15. 次の下線部の言葉の活用の種類として最も適当なものを、アからエのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

「風が強く吹いている。」

- ア 形容動詞の連用形
 - イ 形容詞の連用形
 - ウ 副詞
 - エ 動詞の連用形
- (2点)

16. 次の文を、尊敬の気持ちを表すように書き換えなさい。

「先生は明日、学校へ来る。」 (2点)

大問2 説明的文章の読解 (22点)

次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

私たちが物事を判断するとき、感じたままに結論を出してしまいがちである。しかし、説得的な意見や正しい理解には、根拠が欠かせない。根拠とは、主張を支える事実やデータ、具体例、権威ある資料などのことだ。

たとえば「この町は住みやすい」という主張に対して、「緑が多い」「買い物が便利」といった具体的な事実を添えれば、読み手は主張の意味を共有しやすくなる。逆に、根拠が乏しい主張は、「なぜそう言えるのか」という問いに答えられず、説得力を失う。また根拠は、主張と論理的につながっている必要がある。たとえば主張が「図書館の利用を増やすべきだ」なのに、根拠が「近所に公園がある」では、つながりが弱く、議論として成り立ちにくい。主張に直接関係する根拠を選び、順序立てて示すことが大切である。

さらに、根拠そのものの信頼性も問われる。個人の思い込みだけでは弱く、複数の資料で確認できる事実や、出典の明確な情報を用いると、主張の土台が強くなる。

以上のように、主張には根拠を伴わせ、根拠と主張の関係を明確にし、その根拠の信頼性にも目を向けることが、論理的な読み書きの基礎となる。

17. この文章の要旨を、40字以内でまとめなさい。(4点)
18. 筆者がいう「根拠」とはどのようなものか。本文の用語を使い、30字以内で書きなさい。(4点)
19. 第二段落で挙げられた「この町は住みやすい」という主張の例において、筆者が「具体的な事実」として挙げているものを二つ、本文から抜き書きしなさい。(2点)
20. 第三段落の「図書館の利用を増やすべきだ」という主張に対して、筆者が「つながりが弱い」とした根拠は何か。本文から抜き書きしなさい。(2点)
21. 筆者の主張として最も適当なものを、アからエのうちから一つ選び、記号で答えなさい。
- ア 感じたままに結論を出すほうが自然である
イ 主張には根拠を伴わせ、関係と信頼性に注意すべきだ
ウ 根拠は個人の体験だけで十分である
エ 主張よりも文体の美しさが重要である
- (2点)
22. 第四段落で筆者が重視していることを、20字以内で書きなさい。(2点)
23. あなたの考えを述べなさい。「主張には必ず根拠が必要だ」と考える理由を、本文の内容に触れつつ、50字以上80字以内で書きなさい。(6点)

大問3 文学的文章の読解 (20点)

次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

放課後、旧校舎の裏手には、誰も通らない細い道があった。コンクリートの隙間から雑草が顔を出し、フェンスの向こうでは工場の低い音がずっと続いていた。

美月はそこで立ち止まり、手のひらに乗せた小さな紙片を見つめた。それは朝、机の引き出しに無言で残されていた。名前も理由も書かれていないのに、自分宛だとわかる一行だけがあった。

「ごめんね」

美月は唇を噛んだ。謝る相手が誰なのか、自分が何を許すのか、まだ言葉にならない。

ただ、胸の奥で小さな石が転がるような重さだけがあった。

風が吹いて、紙片の角がわずかに震えた。美月はゆっくり息を吸い、紙片を胸ポケットにしまった。明日、教室に戻ったとき、視線が合うかもしれない。合わなくても、言葉はいつか形になる——そんな予感だけが、かすかに残った。

24. 「小さな石が転がるような重さ」は、美月のどのような心情を表しているか。20字以内で書きなさい。(3点)

25. この作品に登場する「旧校舎の裏手」の風景描写が、作品の雰囲気づくりにどのように関わっているか。40字以内で述べなさい。(4点)

26. 結末の「言葉はいつか形になる」について、美月の心情の変化として最も適当なものを、アからエのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 怒りだけが強くなった
 - イ 完全に忘れようとした
 - ウ わずかな希望や覚悟を抱いた
 - エ 他人を責める気持ちが増した
- (2点)

27. この作品で用いられている描写の技法として適当なものを二つ選び、「アとイ」のように記号で答えなさい。

- ア 情景描写
 - イ 心情を事物にたとえる比喻
 - ウ 年代記的な列挙
 - エ 定義説明
- (注) 正しいものを二つ選ぶ。
- (3点)

28. この作品の主題について、あなたの考えを60字以上100字以内で述べなさい。本文の内容に沿って、自分の言葉で書くこと。(8点)

大問4 古典(古文) (18点)

A 教材用の短文である。語順や意味に注意して読み、あとの問いに答えなさい。

師の許に参り、道を問う。いかにして善き学び得べきや。

29. 「許」の意味を書きなさい。(2点)

30. 古語「いかに」の意味を、現代語で簡潔に書きなさい。(2点)

31. 下線部「得べき」の意味として最も適当なものを、アからエのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 得ただろう
 - イ 得ることができるだろう／得られるだろう
 - ウ 得たくない
 - エ 得なかった
- (2点)

32. 次の文を現代語に直しなさい。歴史的仮名遣いの語は現代仮名遣いに書き換えること。

「いと美しき花」

(3点)

33. 次の下線部の「なり」の用法として最も適当なものを、アからエのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

「彼は学者なり」

- ア 推量（～だろう）
- イ 断定（～である）
- ウ 比喻（～のようだ）
- エ 希望（～であれ）

（2点）

34. 次のうち、中学校古文の学習で重視される観点として最も適当でないものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 語順が現代文と異なる場合があることを踏まえて読む
- イ 敬語や補助動詞など、現代文と異なる表現に注意する
- ウ 仮名遣いや語の意味が現代語と異なることを意識する
- エ すべての文を現代語訳の語順に並べ替えてからでなければ読まない

（2点）

35. 歴史的仮名遣いで「けふ」と書く語を、現代仮名遣いで書きなさい。（2点）

36. 授業で学んだ古文の一文（教科書・教材の例文でもよい）を一つ書き、その文の意味を30字以上50字以内で説明しなさい。（3点）

大問5 作文（10点）

37. 次の条件にしたがって、作文を書きなさい。

- ・ テーマ: 「中学生生活で身につけたこと」
- ・ 字数目安: 原稿用紙にして、おおむね12行以上18行以内（400字前後を目安）
- ・ 内容: 具体的な経験を一つ以上入れること
- ・ 構成: 冒頭で要点が伝わるようにし、本文で理由や具体を述べ、結びでまとめること

（10点）

配点一覧（確認用）

大問	内容	配点
大問1	漢字・語彙・文法	30点
大問2	説明的文章の読解	22点
大問3	文学的文章の読解	20点
大問4	古典（古文）	18点

大問	内容	配点
大問5	作文	10点
合計		100点

小問数: 大問1は16問、大問2は7問、大問3は5問、大問4は8問、大問5は1問 (**合計37設問**)